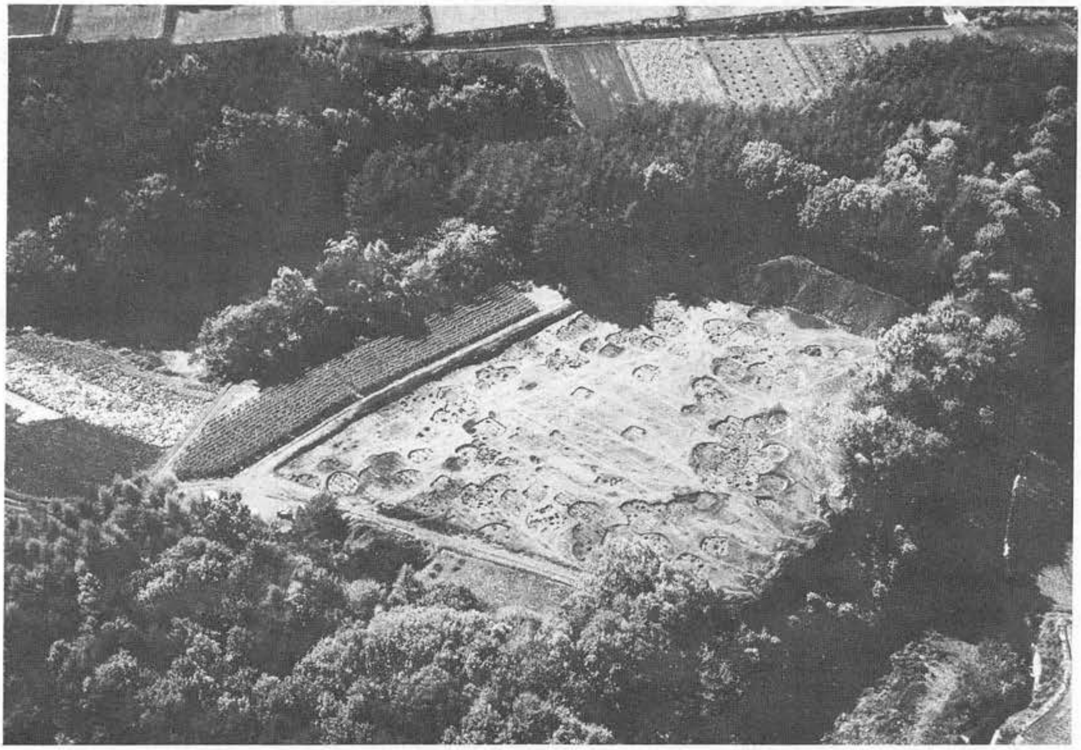
長野県埋蔵文化財ニュース

No. 17　1986. 6. 21　㈶長野県埋蔵文化財センター　松塩筑調査事務所
〒399-07 塩尻市広丘高出1977
TEL 0263—54—2150



縄文中期の環状集落

俎（まないた）原（ばら）遺跡

塩尻市教育委員会　鳥羽嘉彦

俎原遺跡は塩尻市片丘北熊井地籍に所在し、田川の支流、大沢川と牛売沢川によって形成された台地上を占地している。調査面積は6,700㎡である。

縄文時代中期の住居址147軒、小竪穴169基、平安時代の住居址19軒が検出され、その他の遺構はなかったが、縄文時代早期と前期の遺物が出土している。

今回の調査の最も大きな成果は、縄文時代中期集落址のほぼ全容を露呈できたことである。東西約100ｍ、南北約80ｍの範囲で、中央に直径40ｍの広場を有し、周囲を幅20ｍの住居址群が環状に取り巻く縄文時代環状集落の典型的な様相を示している。出土土器により住居址は中期初頭から最終末まで少なくとも13段階に細分化され、それぞれの時期に数軒程度の住居址が孤状あるいは環状に分布し、それが長期間繰り返された結果の最終的な姿である。

東山から片丘丘陵にかけての筑摩山地西麓は松本平でも有数の縄文遺跡地帯であるが、中期初頭から最終末まで間断なく集落が存続することは希有な例であり、この地域における中核的・拠点的集落といえる。そうした意味から松本平はもとより、中部高地においても貴重な資料であり、今後の縄文中期集落研究の基礎的資料になり得るものであろう。

〔建物の概要〕 本館は弘法山古墳や中山古墳群のある松本市の東南の中山丘稜の鞍部にあり、昭和６年より続いた中山考古館を廃し、更に全市的な立場での考古博物館を建設したものである。

敷地面積は4,593㎡、うち古代公園に約1,000㎡をとり、建物は鉄筋コンクリート２階建で，松本市役所中山出張所・公民館と併設である。建築面積は1,009㎡、延床面積は 1,440 ㎡、考古館部分は 960 ㎡である。

各室は１階に事務室37.5㎡、会議室22.9㎡、研究室30.0㎡、資料室25.9㎡、荷解室31.5㎡、整理室94.0㎡第１収蔵室 106.0 ㎡、第２同27.5㎡、倉庫27.5㎡。２階は展示室 253.5 ㎡、研修室兼特別展示室50.0㎡、展示倉庫16.3㎡があり、身障者用エレベーターも備えた。

雨堀遺跡第６号住居址一括土器

古代公園は考古館に隣接してあり、縄文時代と古墳時代の復元住居を各１軒、野外学習用として丸太の机と腰掛け40人分、他に盛土の山に小川をつくり、水飲場とトイレを設けている。

特に１階では埋蔵文化財の発掘調査により出土した遺物の洗浄、整理、保管の場所としてスペースをとり第１収蔵室の収納棚は移動ラックを用いて狭さをカバーしている。また第２収蔵室では常設展示で展示できなかった定形品・復元土器を中心として収蔵展示し、研究者の便を考えている。

建築は昭和60年６月着工、完成は昭和61年３月。展示については昭和61年２月より、７月までで、オープンは昭和61年８月２日である。

〔展示〕 本市には日本民俗資料館があり、ここでは総合博物館として通史的な展示の中で考古資料も扱っている。そのため本館では特色ある考古博物館づくりを目指して、体験学習を含めて小学校高学年を対象としたわかりやすい展示を試みた。

まず導入部では市内の遺跡を示し、室内に入ると、落葉広葉樹林の間を通って、縄文時代の家にたどりつく。つまり、見学者をタイム・スリップさせて縄文の世界へ誘い込もうとの考えである。ケース展示は生活・用具・食物・信仰など縄文から奈良平安時代まで基本的には同じパターンを踏襲し、時代による変化を分りやすくしている。他に弥生時代の土器づくりの家を再現、またジオラマで埴原の牧と牧監庁を表わしている。

本館の場合、中心となるものは古墳の出土品である。弘法山古墳については礫郭を表わす箱形のケースをつくり、埋葬時と同様に副葬品を配置して展示する。

また体験コーナーとして、土器にさわり、実際に土器の施文をしてみたり、昔と今との道具の変遷を示し、楽しく学習できるよう工夫している。更に古代公園では土器づくりや、復元住居での体験など、直接身体で〝むかし〟を感じとってもらいたいと思っている。

見、聞き、触れ、作る。臭覚・味覚の補いはむづかしいが、五感を満すことができればすばらしいと思っている。

〔企画展〕 発掘調査による新資料の展示を行う予定であるが、整理のついたものについてはコーナー展示で随時入れ替えてゆきたい。

〔文献等〕『松本市立考古博物館常設展示案内書』ほかを刊行予定している。

所在地	松本市大字中山3,738番地の1
休館日	水曜日・祝日（日曜日のときは翌日） 12月29日より１月３日
入館料	一般200円　高校生150円　小中学生100円 団体30人以上　一般150円　高校生100円 小中学生80円
交　通	松本電鉄バス、中山線中山霊園口下車

文化課だより

昭和61年度文化課埋蔵文化財関係事業及び行事予定

○文化財総合対策事業

1．埋蔵文化財に関する調査研究及び文化財保護思想の普及・啓発

2．文化財の保護施策調査（指定文化財以外の文化財）

3．史跡・名勝・天然記念的の指定区域整備

○文化財保護審議会

県宝等の指定及び解除等に係る諮問のための審議会の開催

○文化財調査管理事業

文化財指定等のための現地調査・パトロールの実施、保存管理、防災等の指導と環境保全の指導・東山道解明調査・金石文所在調査・文化財保護協会の育成強化・文化財管理者講習会の開催：博物館等の施設運営指導及び職員の研修

○県史編纂刊行事業

社団法人県史刊行会への委託

近代２冊・民俗2冊・考古1冊・(遺構・遺物)

通史２冊(中世・近世)

○文化財修理及び防災事業

国指定—国宝善光寺本堂、重文島崎家住宅以下６件、史跡上田城跡以下８件、天然記念物黒岩山、重要伝統的建造物群保存地区南木曽妻籠保存地区以下３件、埋蔵文化財恒川遺跡群以下35件（別項）

県指定—県宝阿部家住宅以下２件

○文化財普及公開事業

文化財の保護事業に対する補助・文化財目録及び地図の作成

○埋蔵文化財保護対策事業

埋蔵文化財包蔵地パトロールの実施・中央自動車道長野線及び関越自動車道上越線の建設に係る埋蔵文化財発掘調査・分布調査

○歴史の道調査・整備事業

江戸以前の古道・河川等交通関係の総合調査

〈行事予定〉

△市町村文化財行政担当者会議（６月）

△長野県文化財保護審議会（６月・11月）

△長野県遺跡調査指導委員会（７月・11月）

△北陸新幹線・関越自動車道関係埋蔵文化財４県連絡会議（11月・群馬県）

△関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議（11月静岡県）・同地区文化財技術研修会(12月・茨城県)

△文化財管理指導者講習会（11月）

昭和61年度史跡・埋蔵文化財保存事業一覧

（国庫補助関連）（＊印 継続 他新規）

○史　跡

＊上田城跡（上田市）　北櫓保存修理

＊森将軍塚古墳（更埴市）　復元整備

＊高遠城跡（高遠町）　史跡等保存管理計画策定

＊松代城跡付新御殿跡（長野市）　（南）門長屋及び梨四番土蔵保存修理、土地買上げ

梨久保遺跡（岡谷市）　土地買上げ

＊阿久遺跡（原村）　土地買上げ

○埋蔵文化財

1．農業基盤整備事業等に伴う緊急発掘調査

〔東信〕

小諸市鋳物師屋，佐久市鋳物師屋・＊前田、御代田町＊前田・十二、上田市琵琶塚、長門町大仁反、東部町有津倉・外城・陣場・上板橋・下利根川、

〔南信〕

駒ヶ根市高見原、岡谷市花上寺、茅野市矢の口、原村弓振日向・箕手久保、飯田市中宮原、上郷町大明神原・棚田、

〔中信〕

松本市三の宮・清心・神林川西・島立条里・北栗・赤木山・島内遺跡群、塩尻市宗張・今泉・竹ノ花・中原・田川端、山形村 ＊殿村、大町市来見原、

〔北信〕

中野市安源寺

2．市町村内詳細分布調査

＊小諸市・臼田町・小海町・長門町（鷹山遺跡群）下条村・＊大町市・佐久市関越自動車道上越線県境〜佐久 IC 内遺跡

3．重要遺跡確認緊急調査

＊佐久市大井城跡、＊上田市信濃国府跡、諏訪市武居畑遺跡、＊飯田市恒川遺跡、＊松本市推定信濃国府跡、＊長野市土口将軍塚古墳、

4．埋蔵文化財出土遺物保存処理

更埴市社宮寺遺跡ほか、中川村六万部古墳ほか、＊諏訪市フネ古墳、飯田市恒川遺跡群

埋文センター5年目を迎えて

常務理事　三村　忠幸

昨年度の中央道長野線にかかわる調査では、縄文中期渦巻装飾付台付鉢、硬玉製垂飾、緑釉陶器7点セットの一括出土等をはじめ多くの特筆すべき遺物の出土をみ、また、住居址724、掘立柱建物址139、土壙4,319、小竪穴42、集石9、溝149等の検出がなされました。

これは、年度中途における異例ともいうべき調査研究員の増員、プラントオパール分析等科学的手法による条里遺構への取り組み、航空写真測量、重機の活用、冬期間における発掘調査の実施等々に加えるに長野県遺跡調査指導委員会の委員の方々、さらには多くの学識者の皆様方また、関係機関の御指導、御助言、御協力によりまして約24万m²余におよぶ膨大な調査面積を消化し得た大きな成果でありました。

総体的に調査は、道路公団の工事工程との調整のためコマ切れになったりして、デメリットが生じたのは事実でありますが、所期の目的を果たすことができました。

本年は、豊科インターまで10遺跡（継続8遺跡、新規2遺跡）約13万m²の調査を予定しておるほか、関越自動車道上越線の対応が求められております。

中央道長野線の早期開通のためには、松本市島立地区（南栗・北栗・三の宮遺跡）までは大部分は7月中に調査を終了させなければなりません。したがいまして、職員体制は昨年と同様としながらも上半期に集中的に調査をするように体制をとっておるところです。

また、調査の主眼を〝松本平の南部における古代集落の構造的分析〟として関係集落と生産域、墓域という生活空間全域にわたって統一的視点にたった観点で調査にのぞむこととしております。

さらに、従来からの懸案となっている岡谷市内8遺跡の報告書刊行と、併せて塩尻市、松本市内の遺跡の整理作業を鋭意進めることとしております。

普及活動の一環としての中央道長野線の遺物展示会は、岡谷市、塩尻市、松本市とそれぞれ実施してきておるところですが、極めて好評でありますので引き続き実施して参りたいと存じます。

本年も昨年同様厳しい年でありますが、職員一同結束して所期の目的に邁進する考えであります。

一層の御指導、御支援の程を願い上げます。

昭和61年度

長野県埋蔵文化財センター発掘調査の概要

調査第2部長　丸山敞一郎

昨年度はいろいろな問題を残しながらも、どうにか目標の約240,000m²の発掘調査を終了し，多大の成果をあげている。

本年度は、昨年度と較べると調査面積は減少しているものの、昭和63年、豊科ICまでの供用開始という日程のなかで、大半の調査を7月末までに終了させなければならなく、また、工事工程にあわせたこまぎれの調査をせざるを得ないきびしい状況下での調査である。調査の終了した地区は数日にしてC-BOX工事、土盛工事がはじまり、調査した遺構はまたたく間に姿を消していく。本年度はこうしたきびしい状況のなかでの発掘調査ではあるが、「松本平南部における古代集落の構造的分析」をテーマに全員で取り組んでおり、現在までの調査のなかで、おぼろげながらも手掛りがつかめそうなところまできている。

本年度の発掘調査は、4月7日に開始し、現在までに3ケ月近くが経過している。現在調査を実施している地区は、松本市西部の沖積地の神林・島立地区の水田地帯である。

神林地区の下神遺跡は、昨年度にひきつづいての調査であり、現在までに遺構の検出をほぼ終了している。昭和58年の松本市教委の発掘調査と合せて、下神遺跡の概要、ひろがりをつかむことができそうである。本遺跡は奈良時代に集落がいとなまれはじめ、平安時代になると全域に集落が拡大し、10世紀には集落が消滅していったものと思われる。溝をともなう柵列、多くの溝が検出されたことが注目される。

島立地区の南栗・北栗・三の宮の3遺跡は、堀川、境沢によって区分してはいるが、一連の遺跡として把握する方がよいと思われる。この遺跡群は新村・島立条里遺構と重複しているが、中央自動車道長野線はこの地帯を南北に縦断している。今回の調査ははからずもここに長さ2.4km、巾60mの大トレンチを入れることとなった。一見、平坦に見えるこの地域も現水田下は、梓川・鎖川・奈良井川の堆積作用によって複雑な様相を呈している。西から東へ走る幾筋もの自然流

の跡も確認されている。集落立地はこの地形、自然流路に左右されながら、また、これをうまく活用していた様子がうかがえる。島立地区でも下神遺跡と同様に、奈良時代に堀川の南と境沢の北に最初の集落がいとなまれ、平安時代に全域に拡大していく。時期によって居住域が移動しているようであり、居住域の周辺から水田址も検出されており、居住域と生産域の関係もつかめそうである。中世になると北栗遺跡の一画に溝や堀でかこまれた遺構群や墓域が検出されている。また、三の宮遺跡の北端でも墓域が検出されているが、北栗遺跡のそれとは大きく様相がちがっている。

今後の調査は、島立地区の調査も山場を越えたので島内地区へ展開していくことになる。本年度は関越自動車道上越線に係る佐久市内の発掘調査も計画されているが、今のところまだ具体的な動きとなっていない。

昭和61年度　中央自動車道長野線（岡谷ＪＣ—豊科ＩＣ間）埋蔵文化財発掘調査計画

発掘作業

	遺跡名	発掘調査面積（㎡）調査対象面積	61年度調査面積	遺跡の概要（61年度　検出遺構数　6月30日現在）	備考
塩尻市	1 吉田向井	5,660	500	縄文・平安時代集落址（平安住居址１、土壙５）	60.61調査
	小計	5,660	500		
松本市	1 下神	39,400	13,975	平安時代集落址（住居址67、掘立材建物址16、土壙、溝、畑址）	60.61調査
	2 5 新村島立条里 南栗	35,390	19,500	奈良・平安時代集落址（住居址140、掘立材建物址49、土壙、溝、水田址）	60.61調査
	3 北栗	54,320	38,140	奈良・平安時代・中世集落址（住居址117、掘立材建物址50、土壙、溝、水田址）	60.61調査
	4 三の宮	43,120	16,320	奈良・平安時代・中世集落址（住居址77、掘立材建物址23、土壙、溝、水田址）	60.61調査
	6 南中	13,800	2,300	平安時代遺物散布地（遺構なし）	60.61調査
	7 北中	12,760	12,760	平安時代遺物散布地	
	8 北方	21,640	21,640	平安時代集落址	
	小計	220,430	124,635		
豊科町	1 上手木戸	35,400	34,200	平安時代遺物散布地	60.61調査
	小計	35,400	34,200		
合計		261,490	159,335		

整理作業

	遺跡名	調査面積（㎡）	備考
岡谷市	大久保Ｂ、下り林、西林、膳棚Ｂ、柳海途、大洞、中島Ａ、中島Ｂ、	48,930	報告書刊行
塩尻市	青木沢、青木沢東、八窪、大原、北山、御堂垣外、栗木沢、ヨケ、樋口、高山城址 竜神、竜神平、山の神、中原、犬原、上木戸、千本原、高田、吉田向井、吉田川西	152,354	
松本市	神戸、上二子、中二子	59,200	

昭和60年度市町村別発掘調査遺跡一覧

（※は学術調査、(　) 内は調査回数）

地区	市町村名	件数 学術	緊急	計	遺跡名
東信	小諸市		4	4	耳取城跡・古城・和田・池の前
	佐久市		9	9	北西久保・上直路・川越石窯址・西裏・琵琶坂・竹田峰・前田・芝間・池畑
	臼田町	1	1	2	*蛇塚古墳・五霊西古墳
	佐久町		1	1	後平
	小海町	1		1	雨堤
	川上村		1	1	三沢
	望月町		1	1	岩清水
	御代田町		2	2	大沼・前田
	上田市	1	8	9	*信濃国府・殿田・金井裏・染屋台条里水田・五反田・滝沢・金井・西紺屋村・堰ロノ一
	更埴市	1	7	8	*森将軍塚古墳・本誓寺(2)・社宮司・馬口・五輪堂・南沖・石原B
	丸子町		3	3	古免・大鼓岩・原山窯址
	長門町		3	3	上の原・古屋敷遺跡群・不動坂遺跡群
	真田町		1	1	雁石
	武石村		1	1	上平
	計	4	42	46	
南信	伊那市		6	6	堤林・島崎・南村・蟹沢桜林・入林・ワラシベ
	駒ヶ根市		3	3	青木北・高見原・辻沢南
	辰野町		1	1	町屋
	箕輪町		8	8	上の林・末広A・同B・落合A・同B・原垣外・源波
	中川村		3	3	中村(2)・大草
	宮田村		1	1	田中下
	岡谷市		13	13	榎垣外(3)・広畑・花上寺・安沢I・同II・狐穴・新井北・同南・目切・権現堂・梨久保
	諏訪市	1	3	4	*仏法紹隆寺境内・穴場(3)
	茅野市		3	3	藤塚・長峰・棚畑
	富士見町		4	4	大花・居平・曽利・御射山
	原村		2	2	御射山・弓振日向
	飯田市	1	10	11	石行・南方・畑田・殿原・*宮洞窯址・日向田・家の裏古墳・飯田垣外・南の原・恒川(2)
	松川町		2	2	原畑(2)
	高森町		1	1	北原
	阿南町		1	1	深見
	上郷町		6	6	大明神原・棚田・北垣外・栗屋元(3)
	下条村		1	1	細野原
	南信濃村		1	1	尾ノ島館
	計	2	69	71	
中信	松本市	2	14	16	高綱中学校・赤木山遺跡・宮渕・*下原・南栗(2)・南原・竹渕・天神海道・梶海渡・岡田西裏・あがた・蓮台・*信濃国府・島立北栗(2)・島内・出川・神戸・上二子・中二子・下神・三の宮・南中
	塩尻市		19	19	向陽台・北原・弥ノ神古墳・栗木沢・君石・吉田川西(2)・砂田・俎原・上木戸(2)・竜神・竜神平・山の神・中原・犬原・千本原・高田・吉田向井
	明科町		1	1	ほうろく屋敷
	山形村		1	1	殿村
	朝日村		1	1	熊久保
	穂高町		2	2	馬場街道・新林
	豊科町		1	1	上手木戸
	三郷村		1	1	東小倉
	南木曽町	1	1	2	*妻籠本陣跡地・砂地
	日義村		1	1	宮の原
	開田村		1	1	大原
	大桑村		1	1	大明神
	計	3	53	56	
北信	長野市	2	7	9	宮崎けいし場・石川条里・浅川扇状地・三輪・*大室古墳群・*土口将軍塚・塩崎遺跡群・長野吉田高校グランド・平久保条里
	須坂市		1	1	福島居館址
	中野市		2	2	田上寺前・安源寺
	飯山市		1	1	田草川尻
	高山村	1	1	2	*湯倉洞窟・北ノ久保
	信濃町	4		4	*照月台・*仲町・*向新田・*貫ノ木
	戸隠村	1		1	*西光寺
	小川村	1		1	*筏
	計	9	12	21	
合計		18	176	194	

昭和61年度長野県内埋蔵文化財関係機関・構成等一覧

○文化課（埋蔵文化財係）380　長野市大字南長野字幅下692-2
TEL　0262-32-0111（内786・857）

課　長　宮下　哲
局　付　丸田　宗和
課長補佐　松山　祐一
課長補佐兼埋蔵文化財係長　湯沢　角雄
指導主事　小林　孚・大田　喜幸・小林　秀夫・芦部　公一

長野県文化財保護審議会　文化課内
※印歴史関係

委員長　※米山　一政
委　員　※赤羽　篤・市川　健夫・大河　直躬・倉石　忠彦・※黒坂　周平・斉藤　史・菅原　聡・田中　邦雄・田原　久・長岡　克衛・※永峯光一・羽田　健三・和合　正治・平林　国男・湯本　安正

○長野県遺跡調査指導委員会（文化課内）

委員長　戸沢　充則
委　員　田中　琢・永峯　光一・林　茂樹・森嶋　稔

○長野県文化財保護指導委員（文化課内）

東信　出浦　晃彦・小渕　武一・久保　浩美・滝沢　主税・柳沢　哲
南信　今村　善興・竹村　美幸・林　茂樹・堀口　貞幸・山内　尚已
中信　岩垂　俊雄・小穴　芳実・大久保知己・篠崎健一郎・山下　生六
北信　青木　広安・岩戸　貞彦・金井　汲次・高橋　桂・徳嵩　雄司

○長野県文化財保護協会（事務局は文化課内）

会　長　黒坂　周平
常務理事　小出　章

○長野県史刊行会　380　長野市大字稲葉八幡沖田2413-11長野県南俣庁舎
TEL　0262-26-8008

理事長　吉村　午良　常務理事　中島　正美
編纂委員長　宝月　圭吾
主任編纂委員兼事務長　塚田　正朋
考古編纂委員　笹沢　浩　宮下健司（以上常任）
永峯光一・岩崎卓也・戸沢充則・森嶋　稔・樋口昇一・桐原　健・神村　透

○長野県考古学会　386　上田市染屋2117川上元方
TEL　0268-24-4936

顧　問　八幡一郎・大沢和夫
会　長　森嶋　稔　事務局長　川上　元
監　事　金井汲次・林　賢
事務局幹事　塩入秀敏・児玉卓文・林幸彦・矢島宏雄・高村博文・佐藤信之・林和男・花岡弘・福島邦男・小山岳夫
幹　事（◎印地区代表）
高水　檀原長則・◎金井正三　長水更埴　笹沢浩・◎矢口忠良　上小　◎坂井美嗣・翠川泰弘　佐久　羽毛田卓也・◎三石宗一　諏訪　宮坂光昭・◎高見俊樹　上伊　林茂樹・◎気賀沢進　下伊　◎山下誠一・桜井弘人　松本・木曽　平林潤郎・◎山本紀之

藤森栄一賞選考委員長　坪井清足
文化財行政担当者委員長　矢口忠良
中越遺跡保存対策委員長　御子柴泰正
恒川遺跡保存対策委員長　今村善興
矢出川遺跡保存対策委員長　由井茂也

○長野県埋蔵文化財センター

理事長　村山　正　副理事長　高橋弘典
常務理事　三村忠幸　事務局長　西沢宣利
総務部長　堀内計人

総務部：主任　藤森幸枝　主事　六川直利・笠井浩
調査第1部長　樋口昇一　第2部長　丸山敞一郎
調査部：調査研究員　青沼博之・百瀬長秀・田川幸生・小松望・唐木孝雄・原明芳・臼田武正・小口徹・小平和夫・石上周蔵・伊藤友久・上田典男・竹内稔・岡沢秀樹・豊田伸一・松田青樹・和田文人・三上徹也・青柳英利・市村勝已・春日文彦・金原正・黒岩竜也・小林俊一・小林上・近藤尚義・中村千尋・野村一寿・馬場長光・平林彰・二木明・百瀬新治・市川隆之・伊藤隆之・井上城典・大竹憲昭・河西克造・春日雅博・斉藤正善・新海節生・寺内隆夫・寺嶋俊郎・中島経夫・中浜徹・西牧尚人・西山克己・福島厚利・綿田弘実・市沢英利・宇賀神誠司・太田典孝・岡村秀雄・北原正治・関全寿・高野博正・中野亮一・望月映・百瀬忠幸・百瀬久雄・山上秀樹　調査員　百瀬陽三

埋文センター日誌抄（昭和61年4月～6月）

4月1日　新任者県庁にて辞令交付
〃 2日　新体制による全体会・調査員会
〃 3日　奈文研中山敏史・国学院大木下良先生来所
〃 7日　松本市内4遺跡発掘調査開始
〃 10日　塩尻市吉田向井遺跡で一部調査
調整会議（文化課・高速道局・公団）
4月14日　ＳＢＣ放送北栗遺跡取材
〃 24日　内堀県教育次長センター・現場視察
〃 27日　日考協大会で吉田川西遺跡の研究発表
5月1日　松本市開明小4年生160名南栗現場見学
〃 8日　埋文協関東中部ブロック協議会（於埼玉）3名出席
〃 14日　内堀県教育次長センター・現場視察
県農事試験場梅村弘先生各現場の土壌分析の指導、夜スライド中心の講演会
〃 15日　滋賀大小笠原好彦先生現場視察（16日まで）
〃 17日　小笠原先生古代集落について講演会
〃 19日　八王子市教委服部敬史氏ほか8名、吉田川西遺跡出土土器を中心に見学指導
〃 20日　橿原考古学研究所石野博信先生現場視察指導
〃 21日　宮崎大藤原宏志先生プラント・オパール分析調査のため現場視察指導（23日まで）
〃 23日　第10回理事会（於長野国際ホテル）
京都大高谷好一先生ほか3名現場視察指導
信州大笹本正治先生ほか6名現場視察指導
〃 28日　信濃毎日新聞北栗現場取材
〃 29日　埼玉県埋文事業団坂野和信氏現場視察・センターで吉田川西遺跡出土土器見学指導
テレビ松本北栗現場取材
〃 30日　三重県佐々木文化課長ほか2名来所
6月3日　松本地区工事安全祈願祭　3名出席
宮下文化課長ら全現場視察
〃 6日　毛涯副知事現場視察
〃 9日　松本市開智小6年生200名センター・現場見学
〃 11日　県広域セミナー受講者80名南栗現場見学
ＳＢＣテレビセンター・現場取材
〃 12日　林茂樹理事センター・現場視察指導
〃 13日　松本市開明小6年生40名下神現場見学
〃 17日　南安堀金村公民館20名センター・現場見学
〃 20日　追手門大学金田章裕先生現場視察指導
〃 23日　松本市島内地区地権者説明会　3名出席
〃 24日　県文化財保護指導委員20名現場見学
〃 26日　埋文協総会（於大津市）　3名出席

埋文センター人事移動

○転・退任（61・4・1付）
河原田幸雄副理事長　長野県勤労者福祉事業団専務理事
小野光洪理事　退任
春原正毅第三部長　長野市東条小学校へ
小室邦夫調査研究員　塩尻市丘中学校へ
田中正治郎　〃　小諸市小諸東中学校へ
飯沼　潤　〃　小谷村北小谷小学校へ
小菅敏男　〃　篠ノ井高校へ
井口慶久　〃　茅野高校へ
関　賢司　〃　大町高校へ
小松宏昭　〃　明科高校へ
鈴木道穂　〃　上伊那農業高校へ
遠山芳彦　〃　臼田高校へ
尾川秀吉調査員　退任

○新　任
高橋弘典副理事長　長野県社会部長より
和合正治理事
樋口昇一第三部長（第一部長と兼任）
青沼博之調査研究員　塩尻市両小野中学校より
臼田武正　〃　茅野市永明小学校より
竹内　稔　〃　下伊那郡松川東小学校より
太田典孝　〃　茅野市永明中学校より
西山克己　〃　明治大学考古学博物館より
新海節生　〃　小海高校より
豊田伸一　〃　新採
中浜　徹　〃　〃
二木　明　〃　〃
山上秀樹　〃　〃

なお、下記の調査研究員は埋文センター在籍のまま新規採用となりました。
中野亮一・野村一寿・市川隆之・綿田弘実（以上高校）
寺嶋俊郎・近藤尚義・黒岩竜也（以上義務）

編集後記：本年度ニュース第1号、大変おそくなりましたがお届けいたします。県内の埋文関係の情報を迅速かつ正確に盛りこみ、また気軽に読める記事も、そして時には問題提起も……と只今係を中心に今後の方向を模索中です。長野県考古学会の『信濃考古』と重複せず、より斬新な内容にするため御意見をお聞かせ下さい。

今年度のセンターが実施する発掘調査も山場へきています。次号にはその大要を報告する予定です。松本平の中心部を貫く大トレンチでしたが成果をご期待下さい。